

A I と読解力

前号「国語教師・布川とアクティブ・ラーニングの視点」では、【「読解」とは、「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」ことです。従って、答は一つです。そして、その上に、「解釈」の問いを与えました。解釈は自由です。】とした上で、私が、「唯一解を求める読解」と「解釈の自由」にこだわってきたことを書きましたが、今回は、「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」読解力、「唯一解を求める」読解力がいかに大切なのかについて、書いていきます。

『A I vs 教科書が読めない子どもたち』という本があります。2018年2月15日に第1刷が発行されています。新井紀子さんという数学者の著書です。新井さんは、2011年より人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」のプロジェクトディレクターを務め、2016年11月に東大合格を断念します。ロボットの名は、「東ロボくん」。

東ロボくんは、一般的にはA Iと呼ばれますが、厳密にはA Iではなく、また、現時点において東ロボくん以外も含めて、A Iと言えるものはなく、今後出てくる見込みはないそうです。

A Iとは、artificial intelligenceの略。人工知能のことであり、知能を持ったコンピューター(計算機)ということです。つまり、人間の知的活動を計算に置き換えようということですが、コンピューターのレベルがそうなる見込みは现阶段では全くないそうです。現在、A Iと呼ばれているのは、「A Iを実現するために開発されているさまざまな技術」の略であって、本来の意味の「真のA I」ではありません。

東ロボくんが東大合格を諦めたのは、読解が苦手だからです。「読解」作業を「計算」に置き換えることができないからです。皆さん、安心しましたか？安心してはいけません。読解の苦手な東ロボくんは、MARCHには合格できそうなのです。文脈の理解できない東ロボくんより成績の低い人間が8割もいるということになります。

そこで、新井さんは、2016年より、「教育のための科学研究所」を設置し、人間の人間たるゆえんの「読解力」、中高生の読解力を調査する「リーディングスキルテスト(RST)」を実施しました。どのようなテストかと言えば、それは、「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」テスト、「唯一解を求める」テストです。具体的問題の掲載は割愛しますが、驚くほど低い読解力の中高生がたくさんいることがわかりました。つまり、教科書が読めないということがわかったのです。

読解力は、中学生では学年とともに向上し、高校生では学年の上昇による読解力の向上は見られなかったそうです。高3生のデータが十分取れておらず受験勉強が読解力向上に寄与するかどうかは不明なのですが、1・2年生の読解力に差は見られなかったそうです。

読解力は、中学までに伸び切ってしまうのでしょうか。はたまた、高校の授業が読解力を伸ばしていないのでしょうか。ここで、おもしろい話があります。新井さんが指導をした学生に論理的文章が全く書けない学生がいました。新井さんは、その学生にRSTの問題作成を手伝わせました。「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」テスト、「唯一解を求める」テスト、リーディングスキルテストです。すると、みるみるうちに文章力が向上して、半年も経たないうちに、とてつもなく論理的文章を書くようになったそうです。彼は、そのとき38歳だったそうです。私自身も、文学性のかけらもない「文章に書かれたとおりに事実を読み取る」授業、「唯一解を求める」授業により、自らの国語力を伸ばしたように思います。(私の生徒の国語力も伸びたと自負しています。)

さて、「真のAI」は完成せずとも、MARCHレベルの東ロボくんたちは、さらに進化し、一方では今ある人間の仕事を奪い、他方では今はない新たな仕事、人間にしかできない仕事を生み出します。そして、その新しい仕事、人間にしかできない仕事に就く人たちは、「AIもどき」に仕事を奪われた人では当然なく、「AIもどき」にはない「読解力」、人間の人間たるゆえんである「読解力」に優れた人たちです。

「読解力と国語以外の学力との相関は極めて高い」そうです。新学習指導要領では、国語のみならず、すべての教科で言語能力を育成することとなっています。皆さん(先生方)、教科書・資料を読みましよう(読ませましよう、読み取らせましよう)。

ここで、いつもの「自学力」を、いつもとは違った視点から。

「課題を発見し解決するために必要な『自ら主体的に学び続ける力』」を隠して、「自学力」の3文字だけを見たとき、皆さんは、この3文字をどう読み下しますか。…。そうです。「自ら学ぶ力」です。自ら学ぶ方法の基本は、「読む」ことです。「読む」ことなしに「自学自習」はできません。つまり、「自学力」の根本は「自習力」であり、「自習力」の根本は「読解力」ということになります。AI(もどき)時代を生き抜くための「読解力」は、我らが「自学力」とびたりと重なる力なのです。

「読むこと」と「書くこと」。これが、AI(もどき)時代を生き抜く力の基本です。さあ、読みましよう。さあ、書きましよう。(ここで言う「読むこと」とは、いわゆる読書(量)のことではありません。問いを考えるために必要な情報を教科書・資料から読み取ることです。)

(8月21日(火)リクルート「キャリアガイダンス」編集顧問 角田浩子先生をお招きし、授業力向上のための研修会を1日日程で開催しました。他県・他校からも23名の方が参加されました。先生方も頑張っています。)